

令和 6 年度 (2024)

年 間 授 業 計 画

第二学年



教 科	科 目	ペー ジ
国 語	文学国語	1
	古典探究	2
地歴・公民	世界史探究	3
	日本史探究	4
	公 共	5-6
数 学	数学Ⅱ	7
	数学B	8
理 科	生物基礎	9
	物 理	10
	化学	11-12
保健体育	保健	13
	体育（女子）	14
	体育（男子）	15
外国語	英語コミュニケーションⅡ	16
	論理表現Ⅱ	17
家 庭	家庭基礎	18
総 合	総合的な探究の時間	19

教科・科目	文学国語	2 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	文学国語（筑摩書房）		教 科 担 当 者	
副 教 材	・ちくま現代文記述トレーニングテーマ理解×読解×論述力（筑摩書房） ・上級現代文 I 改訂版（ピアソン桐原） ・新現代文単語（いいずな書店） ・新版意味から学ぶ頻出漢字 3 0 0 0（第一学習社） ・共通テスト集中演習実用的文章（ピアソン桐原） ・新版大学共通テスト準備演習論理・文学編（数研出版） トータルサポート新国語便覧（大修館）		A（ ） B（ ） C（ ）	

目 標	【A：知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めている。	【B：思考力、判断力、表現力等】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	【C：学びに向う力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。
-----	--	--	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	①情報の彫刻 ②メディアと倫理 ③空と風と星と詩 ④山月記 ⑤実体の美と状況の美	26	①情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする ②人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 ③人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 ④小説から情景や心情を読み取る。 ⑤身近な題材を取り上げ、問題を発見する	○	○	○	・授業態度 ・ノート ・グループ内発表 ・クラス内発表 ・小テスト ・定期考査
二 学 期	①こころ ②私の個人主義 ③「である」ことと「する」こと ④神様	30	①人間関係をおさえて、「私」の観察と分析、心理の揺れ動きを辿る ・人物のようすに留意して、物語を立体的に捉える ②「こころ」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。 ③文章を読み、現代社会における自由や権利について考察する。 ④語り手と「くま」が、互いに相手をどのように感じ、行動しているかを、情景とともに想像しながら読み味わう。	○	○	○	・授業態度 ・ノート ・グループ内発表 ・クラス内発表 ・小テスト ・定期考査
三 学 期	①死者の声を運ぶ小舟 ②文学の仕事	14 合計 70	①本文を通して映像メディアと接する際の留意点を理解することを通し、文学作品特有の表現力について考える。 ②「そのことを文学者が語らなければ誰も語らないと思うのです」とあるが、そこには筆者のどのような思いが読み取れるか、話し合う。	○	○	○	・授業態度 ・ノート ・グループ内発表 ・クラス内発表 ・小テスト ・定期考査

教科・科目	古典探究	3単位	対象学年	2 学 年
教科書	古典探究（数研出版）		教科担当者	
副教材	・トータルサポート新国語便覧（大修館書店） ・完全マスター古典文法（第一学習社） ・三訂版古文単語330（いいずな書店） ・古典速読トレーニング入門（数研出版） ・古典速読トレーニング基礎（数研出版） ・リテラ古典2（文英堂） ・リテラ古典3（文英堂） ・新版大学共通テスト準備演習古文・漢文編（数研出版） ・漢文必携チェックノートご定番基本編（ピアソン桐原）		A（ ） B（ ） C（ ）	

目標	【A：知識及び技能】 伝統的な言葉の知識を身につけ、生涯において豊かな言語生活を送れるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 古典を通し先人たちのものの見方や考え方を知り、自分の考えを深めたり広めたりする。	【C：学びに向う力、人間性等】 生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ言語を用いて他者とのかかわる姿勢を育む。
----	--	--	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	①大江山いくの道（十訓抄） ②花は盛りに（徒然草） ③行く川の流れ（方丈記） ❶漱石枕流（世話新語）	39	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことをとおして、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連するさまざまな古典の作品や文章などをもとに、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・登場人物の言動などから多様な価値観を読み取ろうとしている。 ・古典文学と現代のさまざまな作品とのつながりを理解しようとしている。	○	○	○	定期考査、小テスト、授業内発表 提出物 グループ発表 など
	①東路の道の果て（更級日記） ②仮名序（古今和歌集） ❶性善（孟子） ❷性悪（荀子）						
二 学 期	①渚の院（伊勢物語） ②花山天皇の出家（大鏡） ③道長の剛胆（大鏡） ❶漢詩 ❷画竜点睛（歴代名画記）	45	・古人の豊かな情操にふれる。 ・個人の価値を尊重し創造性を培う。 ・自然風土と言語文化の密接な関係に気づく。 ・当時の時代背景や地理などの幅広い知識と真理を求める態度を養う。 ・歴史上実在する人物の生き方を通じて、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。 ・中国の歴史書の表現の特徴と我が国に与えた影響を知り、両国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。	○	○	○	定期考査、小テスト、授業内発表 提出物 グループ発表 など
	①御前にて人々とも（枕草子） ②大納言殿参り給ひて（枕草子） ❶鴻門之会						
三 学 期	①光源氏誕生（源氏物語） ②藤壺の入内（源氏物語） ❶四面楚歌	21	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。 ・平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。 ・『史記』について興味を持ち、登場人物の行動や心情について考えようとしている。	○	○	○	定期考査、小テスト、授業内発表 提出物 グループ発表 など
		合計 105					

教科・科目	地理歴史・世界史探究	5単位	対象学年	2学 年
教科書	『世界史探究 詳説世界史』山川出版社		教科担当者	
副教材	『世界史資料タペストリー』帝国書院 『ウィニングコンパス世界史の整理と演習』 とうほう			

目標	【A：知識及び技能】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	【C：学びに向う力、人間性等】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
----	--	--	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一学期	世界史へのまなざし 第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 ”第1章 文明の成立と古代文明の特質” ”第2章 中央ユーラシアと東アジア世界” ”第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開” ”第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成” ”第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成”	65	・人類の進化の過程の概要を理解させ、地球・自然と人類の関りを考察させる。 ・古代文明や諸地域の歴史的特質が形成されていく過程とその多様性を理解させる。様々な文明の相互の関連と相違について考察させる。	○	○	○	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
二学期	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 ”第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向” ”第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開” ”第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国” ”第9章 大交易・大交流の時代” ”第10章 アジアの諸帝国の繁栄” ”第11章 近世ヨーロッパ世界の動向” 第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 ”第12章 産業革命と環大西洋革命” ”第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成” ”第14章 アジア諸地域の動揺” ”第15章 帝国主義とアジアの民族運動”	75	・第Ⅰ部で学んだ、諸地域の展開とその再編について理解させる。モンゴル帝国の時代から本格化する陸と海の交流が「世界の一体化」の先駆けであることを理解させる。 ・諸地域間の交流の活発化に基づく地球規模での交易の拡大が、アジア諸地域に繁栄をもたらし、ヨーロッパ諸国の海外進出やその内部の変革につながったことを理解させ、相互の関連について考察させる。 ・16世紀以降の「世界の一体化」によるアジア諸地域とヨーロッパの再編の構造について理解させる。 ・諸地域の結合が一層強まり、政治・経済・文化など様々な面での相互依存が進む様子を理解させる ・国民国家の形成や、列強による植民地支配の拡大など帝の国主義政策について理解させる。	○	○	○	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
三学期	”第16章 第一次世界大戦と世界の変容” ”第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成” 第Ⅳ部 地球世界の課題 ”第18章 冷戦と第三世界の台頭” ”第19章 冷戦の終結と今日の世界”	35	・国際対立の激化の経過と二度の世界大戦との関連を考察させる。 ・20世紀半ばからの冷戦の構造と経過を理解させる。 ・冷戦後に頻発する地域紛争や民族対立、経済格差の原因や構造について考察させ、これらの課題について解決していこうとする態度を育む。	○	○	○	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
		合計					
		175					

教科・科目	地理歴史・日本史探究	5単位	対象学年	2 学 年
教科書	『日本史探究 詳説日本史』山川出版社		教科担当者	
副教材	『新詳日本史』浜島書店 『詳説日本史史料集 再訂版』山川出版社			

目標	【A：知識及び技能】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	【C：学びに向う力、人間性等】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
----	--	--	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	6 5	・人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。	○	○	○	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
	第Ⅱ部 中世 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長		・平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。				
二 学 期	第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺	7 5	・安土桃山時代から江戸時代までを扱い、近世がどのような時代であったかを世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。	○	○	○	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
	第Ⅳ部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活		・近世の幕末期から現代までを扱う。「歴史総合」の学習を踏まえた、世界の情勢の変化とそこにおける日本の相互の関係や、日本の近現代の歴史を、多面的・多角的に考察し理解できるようにする。				
三 学 期	第Ⅳ部 近代・現代 第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	3 5	・国際対立の激化の経過と二度の世界大戦との関連を考察させ、それらに我が国がどのように関わっていったのかを理解できるようにする。 ・これまでの学びを通して、現代の日本の課題を考察し、構想できるようにする。	○	○	○	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
		合計					
		175					

教科・科目	公民・公共	2 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	『詳述公共』（実教出版）		教 科 担 当 者	
副 教 材	『テオーリア最新倫理資料集』（第一学習社） 『政治・経済資料集 2024』（東京法令出版）			

目 標	【A：知識及び技能】 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	【C：学びに向う力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚などを深める。
-----	---	--	---

【公共Ⅰ（主として倫理分野）（1 単位）

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第 1 編 公共の扉 第 1 章 社会を作る私たち 「人間とは何か」 1. 生涯における青年期の意義 2. 青年期と自己形成の課題 3. 職業生活と社会参加 4. 社会参加と青年の生き方	13	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。 ・生徒自身が青年期の時期にあることに着目させる。 ・人生における青年期の意義・特徴を理解させる。 ・働くことの意義と社会参加の意義を理解させる。 ・望ましい社会のあり方と自己の生き方との関連について考える。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・古代ギリシア人が追求した理想的な人間の生き方とはどのようなものだったか探究し理解を深める。 ・各宗教が説いた、人間の生き方や社会のあり方について理解させる。	○	○	○	・定期考査 ・小テスト ・レポート課題 ・調べ学習課題 ・発表 ・定期考査 など
	第 2 章 人間としてよく生きる 「幸福とは何か」 1. ギリシアの思想 2. 宗教の教え 3. 人間の尊重 4. 人間の自由と尊厳						
二 学 期	5. 個人と社会 6. 主体性の確立 7. 他者の尊重 8. 公正な社会 第 3 章 民主社会の倫理 「社会とは何か」 1. 人間の尊厳と平等 2. 自由・権利と責任・義務	15	・人文主義者たちが人間の尊厳を重視したことに着目させる。 ・近代ヨーロッパであらわれた、社会の改良や改革を唱える思想と主体性の確立についての思想家たちの主張を理解させる。 ・他者について思索した思想家たちの主張を理解する。 ・社会の公正なあり方について思索した思想家たちの主張を理解させる。 ・自由・権利と責任・義務がどのような関係にあるのかを理解させる。 ・世代間倫理にかかわる問題について、具体的な事例を通じて考えさせる。 ・民主政治の意義と課題について理解する。 ・議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解させる。	○	○	○	・定期考査 ・小テスト ・レポート課題 ・調べ学習課題 ・発表 ・定期考査 など
	第 4 章 民主国家における 基本原理 「民主主義の作り方」 1. 人権保障の発展 2. 民主政治の成立 3. 国民主権と民主政治の発展						
三 学 期	第 2 編 よりよい社会の形成 に参加する私たち 第 5 章 国際政治の動向と課題 「国家の安全と人間の安全」 1. 国際社会における政治と法 2. 国家安全保障と国際連合 3. 冷戦終結後の国際政治 4. 軍備競争と軍備縮小 5. 異なる人種・民族との共存 6. 国際平和と日本	7	・国際政治や国際法とはどのようなもの、国内政治や国内法との比較で考える。 ・領土問題が生じる背景と解決方法について考える。 ・冷戦の終結で、国際社会はどのように変化したか、理解させる。 ・冷戦による対立構造と安全保障のジレンマを理解する。 ・核の保有国と非保有国の意見の相違と国力の関係などについて、多面的に検討させる。 ・民族をめぐる対立は、なぜ生じるのか、ナショナリズムや自民族中心主義との関係から考える。 ・国際社会のなかで、日本には何が求められているか、人間の安全保障の観点から考える。	○	○	○	・定期考査 ・小テスト ・レポート課題 ・調べ学習課題 ・発表 ・定期考査 など
		合計 35					

【公共Ⅱ（主として政治経済分野）（1 単位）

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第 2 編 公共の扉 第 1 章 日本国憲法の 基本的性格 「憲法はなぜ大切なのか」 1. 日本国憲法の成立 2. 平和主義と我が国の安全 3. 基本的人権の保障 4. 人権の広がり	13	・大日本帝国憲法と日本国憲法にはどのような違いがあるか、二つの憲法の特徴と相違点について理解させる。 ・憲法の最高法規性について理解させる。 ・日本の安全保障政策の展開とその課題について理解させる。 ・日本国憲法が保障する基本的人権について理解するとともに、どのような人権に関する問題が起こっているか、その解決策について考えさせる。 ・公共の福祉が、個人の権利を等しく尊重し、適正な調整をはかるための原理であることに着目させる。 ・国会と内閣の構成について理解させるとともに、主権者としての自覚を持つように促していく。 ・司法権の独立や裁判について理解させるとともに、裁判員制度や検察審査会についての理解を深めさせる。	○	○	○	・定期考査 ・小テスト ・レポート課題 ・調べ学習課題 ・発表 ・定期考査 など
	第 2 章 日本の政治機構と 社会参加 「政治参加の意義」 1. 政治機構と国民生活 2. 人権保障と裁判所						

教科・科目	数学Ⅱ	4 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	啓林館 「深進数学Ⅱ」		教 科 担 当 者	
副 教 材	数研出版 「新課程 体系数学」 「新課程 体系問題集数学」 「新課程チャート式基礎からの数学Ⅱ＋B」		A () B () C ()	

目 標	【A：知識及び技能】 各単元における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につける。また、事象を数学的に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技能を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 各単元において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の課程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。	【C：学びに向う力、人間性等】 各単元における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できるようにする。
-----	--	--	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第 4 章 指数関数と対数関数 (発展的な学習)	52	習熟度別授業を行い、 ・指数関数と対数関数について理解し、関数についての理解を深める。 ・指数や対数の応用力を育てる。 ・微分の定義、微分の演算等をしっかり理解させる。 ・接線、グラフをかけるようにする。 ・積分についても基礎・基本の徹底を図る。 ・微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、 グループ発表 など
	第 5 章 微分と積分						
二 学 期	【世界史探究日本史探究選択者】 ・復習を兼ねた入試問題演習 (発展的な学習) 【物理・化学選択者】 ・数学Ⅱなどの復習と総合的な演習問題 ・極限、微分の発展的学習 (発展的な学習)	60	習熟度別授業を行い、 ・数学Ⅰ AⅡ Bの入試問題の基礎から標準レベルの問題を解けるようにする。 ・発展的学習として数学Ⅱの復習と共に演習問題を行う。 ・微分積分を発展させ深く学ばせる。 ・極限の理解を深める。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、 グループ発表 など
三 学 期	【世界史探究日本史探究選択者】 ・復習を兼ねた入試問題演習 (発展的な学習) 【物理・化学選択者】 ・数学Ⅱなどの復習と総合的な演習問題 ・極限、微分の発展的学習 (発展的な学習)	28	習熟度別授業を行い、 ・数学Ⅰ AⅡ Bの入試問題の基礎から標準レベルの問題を解けるようにする。 ・発展的学習として数学Ⅱの復習と共に演習問題を行う。 ・微分積分を発展させ深く学ばせる。 ・極限の理解を深める。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、 グループ発表 など
		合計 140					

教科・科目	数学B	2単位	対象学年	2 学 年
教科書	啓林館 「深進数学B」		教科担当者	
副教材	数研出版 「新課程 体系数学」 「新課程 体系問題集数学」 「新課程チャート式基礎からの数学Ⅱ＋B」		A () B () C ()	

目標	【A：知識及び技能】 各単元における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につける。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 各単元において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の課程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。	【C：学びに向う力、人間性等】 各単元における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できるようにする。
----	--	--	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第1章 数列 第1節 数列とその和 (発展的な学習) 第2節 数学的帰納法 (発展的な学習)	26	習熟度別授業を行い、 ・数列とは何かを理解させる。 ・数列の第 n 項を項数 n の関数として表すことができれば数列が定まることを理解させる。 ・等差・等比数列の定着をはかる。 ・ Σ の記号を導入し、その性質を理解させる。 ・種々の数列についての理解を深める。 ・和から数列を求められるようにする。 ・漸化式から一般項を求められるようにする。 ・数列の一般項を類推し、その推測の正しいことを、数学的帰納法によって証明することができるようにする。 ・演習を通して数列全般の理解を深めさせる。 ・漸化式から一般項を求められるようにする。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、 グループ発表 など
二 学 期	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 正規分布	30	習熟度別授業を行い、 ・確率変数と確率分布について理解させる。 ・確率変数から期待値を求めることができる。 ・確率変数の分散と標準偏差を求めることができる。 ・二項分布について理解させる。 ・連続的な確率変数について理解させる。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、 グループ発表 など
三 学 期	第2章 統計的な推測 第2節 正規分布 第3節 区間推定と 仮説検定	14	習熟度別授業を行い、 ・正規分布について理解させる。 ・区間推定と仮説検定について理解を深めさせる。 ・仮説検定を身の回りの問題へ活用させる。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、 グループ発表 など
		合計 70					

教科・科目	理科・生物基礎	2 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	東京書籍「生物基礎」		教 科 担 当 者	
副 教 材	第一学習社「二訂版スクエア最新図説生物」 第一学習社「2024 セミナー生物基礎」		A () B () C ()	

目 標	【A：知識及び技能】 日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	【B：思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	【C：学びに向う力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与しようとしている。
-----	--	--	---

学期	単元	時間	指導内容・留意点等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一学期	1 編 1章 1節 2節 3節	26	・地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気づき，地球上に多様な種がみられるのはなぜか考える。 ・地球上で生活する生物の多様性は，進化の結果生じたものであることを理解する。 ・光学顕微鏡の各部の名称とはたらき，マイクロメーターの使い方と細胞の大きさの測定方法について理解する。 ・原核細胞，動物の真核細胞，植物の真核細胞の構造を比較し，共通性について考える。	○	○	○	授業態度 発問発表評価 定期考査 実験レポート 課題レポートなど
	2章 1節 2節 3節		・同化や異化の代謝の過程で生じるエネルギーの授受に ATP が利用されていることを理解する。 ・酵素の主成分がタンパク質であることから，最適温度と最適 pH という性質が生じることを知る ・呼吸におけるグルコースの分解反応の概要と ATP の合成について理解する。 ・光合成では，光エネルギーを利用して ATP が合成され、二酸化炭素を材料にして有機物が合成されることを理解する。	○	○	○	授業態度 発問発表評価 定期考査 実験レポート 課題レポートなど
	2 編 1章 1節 2節 3節		・親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい，遺伝情報を担うのが遺伝子であり，遺伝子の本体 DNA であることを理解する。 ・DNA の二重らせん構造の特徴を理解する。 ・DNA の 2 本鎖が解離した状態と複製後の状態を示す資料から，塩基の相補性が DNA の複製のしくみに関わっていることを見いだす。	○	○	○	授業態度 発問発表評価 定期考査 実験レポート 課題レポートなど
	2章 1節 2節 3節		・生命現象には多種多様なタンパク質が関与していることを理解する。 ・DNA の遺伝情報は，まず mRNA に転写された後，アミノ酸に翻訳されることで発現するという流れを理解する。 ・個体を構成する細胞は，同一の遺伝情報をもつが，それぞれの細胞で発現する遺伝子は，その細胞の機能により異なることを理解する。	○	○	○	授業態度 発問発表評価 定期考査 実験レポート 課題レポートなど
	3 編 1章 1節 2節 3節 4節		・フィードバックによって，体内環境の恒常性が維持されていることを理解する。 ・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連付けて理解する。 ・内分泌腺と分泌されるホルモン，その作用について知り，ホルモンが受容されるしくみを理解する。 ・血糖濃度の調節に関わるホルモンの種類と，それぞれのはたらきについて理解する。	○	○	○	授業態度 発問発表評価 定期考査 実験レポート 課題レポートなど
	2章 1節 2節 3節		・体内環境の維持の観点から血液凝固について理解する。 ・免疫記憶と二次応答について理解する。 ・予防接種と血清療法のしくみについて理解する。 ・アレルギーの定義と症状および自己免疫疾患について理解する。	○	○	○	授業態度 発問発表評価 定期考査 実験レポート 課題レポートなど
三学期	4 編 1章 1節 2節 3節	14 合計 70	・森林の階層構造および環境要因としての土壌の構造について理解する。 ・植生の遷移について、モデル的な過程とその要因を理解する。 ・環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。	○	○	○	授業態度 発問発表評価 定期考査 実験レポート 課題レポートなど
	2章 1節 2節 3節 4節		・生物の多様性について 3 つの視点から理解を深める。 ・キーストン種と生態系のバランスとの関係性について理解する。 ・人為的攪乱について生態系との関係を理解する。 ・人間の生活が生態系に与える影響について様々な例を元に理解する。	○	○	○	授業態度 発問発表評価 定期考査 実験レポート 課題レポートなど

教科・科目	物理	5単位	対象学年	2 学 年
教科書	新編 物理基礎 （数研出版）		教科担当者	
副教材	新課程 リードα 物理 （数研出版） 改訂版 フォトサイエンス 物理図録 （数研出版）			

目標	【A：知識及び技能】 知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	【B：思考力、判断力、表現力等】 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	【C：学びに向う力、人間性等】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において，粘り強く学習に取り組んでいるか，自ら学習を調整しようとしているか。
----	--	---	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 2. 気体の状態変化 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度 2. 落体の運動 第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力のつり合い 2. 剛体にはたらく力の合力と重心 第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数 第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動 4. 万有引力	60	・気体の状態が変化するとき成立する諸法則、及び、状態方程式について理解する。 ・定積変化や定圧変化などの気体の状態変化を学習し，各状態変化で熱力学の第1法則を適用できるようにする。	○		○	定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト など
			・「物理基礎」で学習した自由落下や鉛直投げ上げの内容を確認し，水平投射や斜方投射のそれぞれの運動について理解する。	○	○		
			・力のモーメント，剛体のつりあいを学習し，剛体にはたらく力について理解する。 ・重心について学習し，剛体にはたらく力のモーメントのつりあいの式の立て方を理解する。	○		○	
			・運動量について学習し，運動方程式を用いて，運動量の変化と力積の関係を理解する。 ・運動量と力積の関係をを用いて，運動量保存の法則を導き，直線上や平面上での衝突，物体が分裂，合体する場合のそれぞれで，運動量保存の法則が成り立つことを理解する。	○	○		
			・等速円運動の速度、角速度、向心加速度、向心力や遠心力について理解する。 ・単振動と円運動の関係をを通して、単振動の周期、変位、速度、加速度を理解する ・ケプラーの法則，万有引力の法則を学習し，万有引力と重力の関係を定量的に理解する。		○	○	
二 学 期	第3編 波 第1章 波の伝わり方 1. 波と媒質の運動 2. 正弦波の式 3. 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 1. 音の伝わり方 2. ドップラー効果 第1章 波の伝わり方 1. 光 2. 光の性質 3. 光の干渉と回折 第4編 電気と磁気 第1章 電場 1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. 物質と電場 5. コンデンサー 第2章 電流 1. オームの法則 2. 直流回路 3. 半導体 第3章 電流と磁場 1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力	85	・水面波の干渉を学習し，ホイヘンスの原理，平面波の反射・屈折，波の回折など，波の伝わり方について理解する。	○		○	定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト など
			・反射・屈折・回折・干渉など，音波の性質や伝わり方について理解する。 ・波源の移動と波長の変化を学習し，音源や観測者が動くさまざまな場合のドップラー効果について，式を用いて理解する。	○	○	○	
			・レンズや鏡の基本的な性質を学習し，実像，虚像のでき方のしくみについて，式を用いて理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉を学習し，薄膜による干渉，くさび形空気層による干渉など，さまざまな場合における光の干渉条件を理解する。	○		○	
			・電荷や帯電，電気量保存の法則などを学習し，静電気力について定量的に理解する。 ・電場の基本的な性質を学習し，電場と電気力線の関係，一様な電場について理解する。 ・コンデンサーの原理を学習し，平行板コンデンサーの電気容量，誘電体，誘電率について理解する。	○			
			・電子の運動をもとにした，オームの法則の導出過程を理解する。 ・電流計，電圧計，電池の内部抵抗について理解し，さまざまな回路において，キルヒホッフの第1，2法則を適用する。	○		○	
			・磁気力に関するクーロンの法則を学習し，電流がつくる磁場の強さと磁力線の概形について理解する。 ・ローレンツ力について学習し，磁場中に入射した粒子の運動を理解する。	○	○		
三 学 期	第4章 電磁誘導と電磁波 1. 電磁誘導の法則 2. 自己誘導と相互誘導 3. 交流の発生 4. 交流回路 5. 電磁波 第5編 原子 第1章 電子光 1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子	35	・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し，磁場中を動く導体に生じる起電力や，導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。 ・交流の発生のしくみを理解し，交流回路における抵抗，コイル，コンデンサーの特性を理解する。	○	○	○	定期考査、 実験レポート 課題レポート、 小テスト グループ発表 など
			・光電効果の実験とアインシュタインの光の量子論を理解する。 ・電子の波動性と物質波、波動と粒子の二重性について理解する。	○		○	
		合計 180	・原子の構造とボーアの水素原子モデルを理解させ、水素原子のスペクトルについて理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。 ・核反応について学習し，反応の際に放出，吸収されるエネルギーを理解する。 ・素粒子の概要について理解する。	○		○	

教科・科目	理科 化学	5単位	対象学年	2 学 年
教科書	第一学習社「化学」		教科担当者	
副教材	第一学習社「セミナー化学基礎・化学」 実教出版 「四訂版サイエンスビュー化学総合資料」 浜島書店「新リピートノート化学」③④⑤			

目標	【A：知識及び技能】 化学の基本的な概念や原理・法則を理解していると同時に，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	【B：思考力、判断力、表現力等】 化学的な事物・現象から問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	【C：学びに向う力、人間性等】 化学的な事物・現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
----	---	--	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴 第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光	65	・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の構造式を決定するまでの過程を学習し，その原理を理解する。 ・飽和炭化水素の性質や反応を，その構造と関連付けて理解する。 ・不飽和炭化水素の性質や反応を，その構造と関連付けて理解する。 ・アルコール，エーテルの性質や反応を，その構造と関連付けて理解する。 ・アルデヒド，ケトン の性質や反応を，その構造と関連付けて理解する。 ・カルボン酸，エステル の性質や反応を，その構造と関連付けて理解する。 ・油脂，セッケン の性質を，その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族炭化水素の性質や反応を，その構造と関連付けて理解する。 ・フェノール類，芳香族カルボン酸の性質や反応を，その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族アミン，アゾ化合物の性質や反応を，その構造と関連付けて理解する。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、小テスト など
	第Ⅰ章 物質の状態 第1節 物質の状態変化 第2節 気体の性質		・化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れることを理解する。 ・ヘスの法則を理解する。 ・結合エネルギーを理解する。 ・化学反応には，光を放出・吸収するものがあることを理解する。 ・吸熱反応が自発的に進む要因について理解する。 ・物質の三態の変化を復習し，その変化に伴う熱の出入りを理解する。 ・物質の沸点・融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解する。 ・気体の圧力が気体分子の熱運動と密接に関係することを理解する。 ・状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解する。 ・ボイルの法則，シャルルの法則，ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解し，その応用を理解する。 ・気体の状態方程式を理解し，その応用を学習する。また，全圧と分圧を学習し，混合気体の平均分子量を理解する。 ・理想気体と実在気体との違いを理解する。				
二 学 期	第3節 固体の構造 第4節 溶液の性質 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ 第4節 化学平衡 第5節 電離平衡	75	・化学結合と結晶の性質について，復習する。 ・金属結晶の構造について理解する。 ・イオン結晶の構造について理解する。 ・共有結合の結晶の構造について理解する。 ・分子結晶の構造について理解する。 ・非晶質について理解する。 ・溶解のしくみを理解し，固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。 ・凝固点降下，沸点上昇，浸透圧の定量的な取扱いを理解する。 ・コロイドを理解し，その溶液の性質を理解する。 ・反応速度が単位時間内に変化する物質の量で表されることを理解する。 ・反応速度と濃度との関係を理解する。 ・反応速度と温度との関係を理解する。 ・触媒の働きとその利用を理解する。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、小テスト など
	第Ⅲ章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質 第2節 非金属元素 第3節 典型金属元素 第4節 遷移元素		・可逆反応と不可逆反応，および化学平衡の意味を理解する。 ・平衡定数の意味を理解する。 ・化学平衡の移動について，ルシャトリエの原理を中心に理解する。 ・弱酸・弱塩基の電離平衡や水の電離平衡について理解する。 ・pH についての理解を深め，平衡定数の応用を理解する。 ・塩の性質とその反応について，化学平衡の概念から理解する。 ・緩衝液とその作用を理解する。 ・溶解度積を理解する。 ・元素の分類を理解する。 ・典型元素の性質が周期表にもとづいて整理できることを理解する。 ・水素とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・貴ガスについて，性質や用途を理解する。				

			・ハロゲンとその化合物について，性質や用途を理解する。 ・酸素・硫黄とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・窒素，リンとその化合物について，性質や用途を理解する。 ・炭素，ケイ素とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・無機物質の製法について，理解する。				
			・アルカリ金属とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・2族元素とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・アルミニウムやスズ，鉛とその化合物について，性質や用途を理解する。				
			・遷移元素について，その特徴や性質などを理解する。 ・鉄とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・銅とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・銀とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・亜鉛とその化合物について，性質や用途を理解する。 ・クロムやマンガンとその化合物について，性質や用途を理解する。 ・金属イオンの定性分析について理解する。				
三 学 期	第Ⅴ章 高分子化合物 第1節 高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 第3節 合成高分子化合物 総合問題	35	・高分子化合物の特徴を理解する。 ・単糖，二糖について，その構造や性質を理解する。	○	○	○	定期考査、実験レポート 課題レポート、小テスト など
		合計 175	・多糖について，その構造や性質を理解する。 ・再生繊維と半合成繊維について，その合成や性質を理解する。 ・α-アミノ酸について，その性質や構造を理解する。 ・タンパク質について，その構造や性質を理解する。 ・核酸について，その構造や働きを理解する。 ・合成高分子化合物の特徴や分類を理解する。 ・合成繊維について，その構造や性質，用途を理解する。 ・合成樹脂について，その構造や性質，用途を理解する。 ・機能性高分子について，その構造や性質，用途などを理解する。 ・天然ゴムと合成ゴムについて，その構造や性質，用途などを理解する。				
			・総合問題演習解説を通し，全般的な復習，理解の定着をはかる。				

教科・科目	保健	1 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	新高等保健体育		教 科 担 当 者	
副 教 材				

目 標	【A：知識及び技能】 学習の過程を通じた知識の習得状況について評価するとともに、それらを既有的知識と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できるように概念等を理解しているかを評価する。	【B：思考力、判断力、表現力等】 保健の知識を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかを評価する。	【C：学びに向う力、人間性等】 自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。
-----	--	---	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	単元 生涯を通じる健康 1 思春期と健康 2 思春期の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康 7 高齢社会に対応した取り組み	13 取	(1) 思春期、結婚生活、中高年期といった生涯の各段階においては健康に関わる様々な課題や特徴があり、それを適切に対処していく必要がある。それらの健康課題や特徴について学び、生涯にわたって健康に生きていくための意思決定・行動選択の大切さを学ぶ。	○	○	○	課題レポート、 グループ発表 定期考査、 ノート提出
二 学 期	8 働くことと健康 9 労働災害の防止 10 働く人の健康づくり 単元 健康を支える環境づくり 11 大気汚染と健康 12 水質汚濁・土壌汚染と健康 13 健康被害を防ぐための環境対策 14 環境衛生に関わる活動 15 食品の安全性と健康 16 食品の安全性を確保する取り組み	15	(2) 働くことの意義と働き方の多様性、働く人の健康、労働環境の変化に伴い、安全の課題について学び、社会環境づくりの大切さについて理解する (3) 健康の保持・増進には、個人の意識や行動に加え、自然環境や社会制度、保健・医療サービスなど、健康を支える視点で整備・充実させることが重要である。環境衛生活動、食品の安全について理解を深める。 (4) 人々の健康を支えるために食品の安全性の確保が重要であることを理解する。	○	○	○	課題レポート、 グループ発表 定期考査、 ノート提出
三 学 期	17 保健制度とその活用 18 医療制度とその活用 19 医薬品の制度とその活用 20 様々な保健活動や対策 21 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	7	(5) 健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。 医療サービスの適切な活用方法について理解する。	○	○	○	課題レポート グループ発表 定期考査 ノート提出
		合計 35					

教科・科目	体育（女子）	2 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	大修館「新高等保健体育」		教 科 担 当 者	
副 教 材	なし			

目 標	【A：知識及び技能】 実践種目の技能向上、実技種目のタイム向上を目指し、体力の向上を身に付ける。各種目の運動特性を理解し、知識を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫させる。	【C：学びに向う力、人間性等】 自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得させる。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。
-----	---	--	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	A バドミントン 水泳 B 陸上競技 体づくり運動 (新体力テスト) 水泳	26	◎バドミントン ・ストローク、スマッシュ、サービス ・ゲーム（シングルス） ◎陸上競技、体づくり運動 ・短距離走 ・投てき種目 ・体力向上のための運動 ◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ	○	○	○	実技到達度テスト タイム測定 課題レポート 実技種目への振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 課題解決への態度 出席状況など
二 学 期	A 水泳 バレーボール B 水泳 サッカー	30	◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ。バタフライ ◎バレーボール ・トス スパイク サーブ ブロック 守備練習 ・連係プレー 簡易ゲーム ゲーム ◎サッカー ・個人技能（キック、トラップ、ドリブル、ヘッディング） ・シュート ・対人技能 ・パス ・守備練習 ・連係プレー ・ゲーム	○	○	○	実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 問題解決への態度 出席状況など
三 学 期	A 長距離走 球技選択	14	◎ 長距離走 ・タイム走 ・距離走 ◎ 球技選択 ・提示した球技（バレーボール、バドミントン等の 中から選択）				タイム測定 実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 問題解決への態度 出席状況など
		合計 70		○	○	○	

教科・科目	体育（男子）	2 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	大修館「新高等保健体育」		教 科 担 当 者	
副 教 材	なし			

目 標	【A：知識及び技能】 実践種目の技能向上、実技種目のタイム向上を目指し、体力の向上を身に付ける。各種目の運動特性を理解し、知識を身に付ける。	【B：思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫させる。	【C：学びに向う力、人間性等】 自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得させる。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。
-----	---	--	--

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	A 陸上競技 体づくり運動 （新体力テスト） 水泳 水泳	B バドミントン 水泳	26 ◎バドミントン ・ストローク、スマッシュ、サービス ・ゲーム（シングルス、ダブルス） ◎陸上競技、体づくり運動 ・短距離走 ・投てき種目 ・体力向上のための運動 ◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ	○	○	○	実技到達度テスト タイム測定 課題レポート 実技種目への振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 課題解決への態度 出席状況など
二 学 期	A 水泳 サッカー	B 水泳 バレーボール	30 ◎水泳 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ ◎サッカー ・個人技能（キック、トラップ、ドリブル、ヘッディング） ・シュート ・対人防御 ・パス ・簡易ゲーム ・ゲーム ◎バレーボール ・パス ・トス、スパイク、ブロック ・サーブ ・守備練習 ・関係プレー ・簡易ゲーム ・ゲーム	○	○	○	実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 問題解決への態度 出席状況など
三 学 期	A 長距離走 球技選択	B 長距離走	14 ◎ 長距離走 ・タイム走 ・距離走 ◎ 球技選択 ・提示した球技（バレーボール、サッカー等の中から選択）	○	○	○	タイム測定 実技到達度テスト 課題レポート 実技種目の振り返り 実技種目への自主的な 取り組み 問題解決への態度 出席状況など
		合計	70				

教科・科目	英語コミュニケーションⅡ	4単位	対象学年	2学 年
教科書	ELEMENT English CommunicationⅡ		教科担当者	
副教材	ELEMENTⅡサブノート・速読英単語必修編[Z会] ・READING HOPE 大学入試共通テストリーディング対策 ・READING SPARKLE advanced ListeningEssentials2.5 ・Focus on Listening (S1) ・Q: Skills for Success Reading and Writing 3 [Oxford]		A () B () C ()	

目標	【A：知識及び技能】 習得すべき文法知識や語法を正しく理解した上で、それらを場面に応じ適切に用いて、表現活動を行うことができるようになること。	【B：思考力、判断力、表現力等】 プレゼンテーションや討論の場面で、身のまわりや世界で起きている話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話し伝えることができるようになること。	【C：学びに向う力、人間性等】 学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしたり、学習した内容について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、他者と議論する場を積極的に構築する態度を養うこと。
----	--	---	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一学期	Unit1,2 速読英単語 1～20 READING HOPE Focus on Listening (S1) Q: Skills for Success Reading and Writing 3 Unit1,2,3	52	①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activity の発表，ライティング，Speaking Review Task]（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現）	○	○	○	定期考査、本文学習ノート、グループ発表、Unit Activity の発表など
			①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activity の発表，ライティング，Speaking Review Task]（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現）	○	○	○	定期考査、グループ発表、個人発表など
二学期	Unit3,4,5 速読英単語 21～50 READING HOPE Focus on Listening (S1) Q: Skills for Success Reading and Writing 3 Unit4,5,6,7	60	①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activity の発表，ライティング，Speaking Review Task]（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，中間・期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現）	○	○	○	定期考査、グループ発表、個人発表など
三学期	Unit6,7,8 速読英単語 51～70 READING SPARKLE ListeningEssentials2.5	28	①言語活動の取り組み状況の観察（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ②パフォーマンステスト [Unit Activity の発表，ライティング，Speaking Review Task]（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ③上記課題等の提出（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度） ④小テスト，期末考査，評価問題など（知識・技能，思考・判断・表現）	○	○	○	定期考査、グループ発表、個人発表など
	(S1) Q: Skills for Success Reading and Writing 3 Unit 8	合計 140					

教科・科目	論理表現Ⅱ	2 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	CROWN Logic ExpressionⅡ		教 科 担 当 者	
副 教 材	Ultimate 総合英語 2nd edition / Vintage 英文法・語法 4thEdition) / REPS 英文法・語法問題集 / クローザー頻出英文法・語法問題改訂版 Q: Skills for Success Reading and Writing 3 (Oxford University Press)			

目 標	【A：知識及び技能】 表現形式と機能を理解した上で、伝達したい事柄について、話しかけたり例を挙げるやり取りの表現の機能に留意しながら、既習の文法知識を活用して、自分の考えを伝え合う技能を身に付ける	【B：思考力、判断力、表現力等】 アイデアの中から適切なものを取捨選択し、それを基本的な語彙や文法を活用して表現して伝えたり、相手からの質問に応答したりできる。またアイデアや情報の中から適切なものを取捨選択し、論理展開に留意しながら、既習の文法知識を活用して、聞き手を意識したスピーチができる。	【C：学びに向う力、人間性等】 主体的に考え、複数のアイデアの中から適切なものを取捨選択し、1 学年時に学習した基礎的な英文法をさらに定着させ、それを活用して主体的に表現して伝えようとしたり、相手からの質問に応答することができる。
-----	---	--	--

学期	単 元	時 間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	Grammar CROWN Logic ExpressionⅡ Lesson 1～5 Bright Stage 1 章～11 章 REPS 英文法・語法問題集 (α：応用問題 β：基礎問題) Writing Q: Skills Unit 1～2	26	既習の文法知識を使いこなして文章を作る。 プレゼンテーション等の発表活動を行う。 ・Is it good for high school students to work part-time? ・Do we need to study English? ・What do you want to do after graduating from high school? ・Should Japanese workers take a three-week vacation every year? ・Let’ s explain Japanese culture in English. α：文法の定着を図り、論理的なライティング活動を行う β：基本的な文法事項の定着を図り、文構造を理解する。	○	○	○	定期考査、グループ発表、個人発表など
二 学 期	Grammar CROWN Logic ExpressionⅡ Lesson 6～9 Bright Stage 12 章～16 章 REPS 英文法・語法問題集 クローザー頻出英文法・語法問題 (α：応用問題 β：基礎問題) Writing Q: Skills Unit 3～4	30	より高度な文法を用いて、パラグラフを書く。 スピーチ等の発表活動を行う。 ・What do you think robots will do in the future? ・Should elementary school students have cell phones? ・How can we relieve stress? ・What would you do if you had a time machine? α：文法の定着を図り、論理的なライティング活動を行う β：基本的な文法事項の定着を図り、文構造を理解する。	○	○	○	定期考査、グループ発表、個人発表など
三 学 期	Grammar CROWN Logic ExpressionⅡ Lesson 10～12 Bright Stage 17 章～19 章 英語の構文 150 第 1 章～第 16 章 クローザー頻出英文法・語法問題 (α：応用問題 β：基礎問題) Writing Q: Skills Unit 5～6	14 合計 70	より高度な文法を用いて、文章を書く。 ディベート等の発表活動を行う。 ・Would you prefer to live in the city or the country? ・How can we get more children involved in sports? ・What should we do to reduce the amount of garbage? α：文法の定着を図り、論理的なライティング活動を行う β：基本的な文法事項の定着を図り、文構造を理解する。	○	○	○	定期考査、グループ発表、個人発表など

教科・科目	家庭基礎	2 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	家庭基礎 持続可能な未来をつくる		教 科 担 当 者	
副 教 材	2 0 2 4 生活学 Navi		A () B () C ()	

目 標	【A：知識及び技能】 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	【C：学びに向う力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
-----	--	--	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	B 衣食住の生活の自立と設計 (1) 食生活と健康 (2) 衣生活と健康 D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	26	ア (ア) ライフステージに応じたええ異様の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己の家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。 (イ) おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けること。 イ 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫すること。 調理実習 イタリアン・中華・和食 ア (ア) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができること。 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けること。 イ 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫すること。 ア ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解すること。 イ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践すること。	○	○	○	実験レポート 課題レポート ワークシート表 実習計画表 グループ発表 など
二 学 期	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭 (3) 子供の生活と保育 (4) 高齢期の生活と福祉 (5) 共生社会と福祉 B 衣食住の生活の自立と設計 (3) 住生活と住環境	30	ア 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めること。 イ 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫すること。 ア 生涯発達の視点で青少年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深めること。 イ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任を持って行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察すること。 ア 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること イ 子どもを産み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察すること。るとともに、生活情報を適切に収集・整理できること。 ア 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに生活支援に関する基礎的な技能を身に付けること。 イ 高齢者の自立生活を支えるために、家庭や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察すること。 ア 生涯を通じて家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。 イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもっとともに支え合って生活することの要性について考察すること。 ア ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を見に付けること。 イ 住居の機能性や快適性、住居と地域生活との関わりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫すること。	○	○	○	定期考査 実験レポート 課題レポート ワークシート グループ発表 など
三 学 期	C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	14 合計 70	ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。 イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること。 ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できること。 イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫すること。 ア 生活と環境と関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解すること。 イ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考察し、ライフスタイルを工夫すること。	○	○	○	実験レポート 課題レポート ワークシート グループ発表 など

教科・科目	総合的な探究の時間	1 単位	対象学年	2 学 年
教 科 書	教 科 担 当 者			
副 教 材				

目 標	【A：知識及び技能】 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。	【B：思考力、判断力、表現力等】 実社会や実生活の自己の関りから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	【C：学びに向う力、人間性等】 探究に主体的・協力的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりより社会を実現しようとする態度を養う。
-----	--	---	---

学期	単 元	時間	指 導 内 容・留 意 点 等	評価規準			
				A	B	C	評価方法
一 学 期	○今年度のガイダンス ○研究活動の開始	13	○ガイダンスや講演・講義を通じて、現代社会の課題について考える。 ○未知のもの・遠い世界のもの・隔てられているもの・未来のものなど、「今繋がっていない物事」に橋を架けるという目標のもとに、主体的に行う研究活動を行う。	○	○	○	課題レポート 発表など
二 学 期	○研究活動の継続 ○中間発表	15	○ゼミごとに分かれて研究活動を行う。 ○高校1年生との合同ゼミで他学年と協働して研究に取り組む。 ○研究結果を整理し、ポスターやスライド資料などを利用して研究途中経過を中間発表会で発表する。 ○これまでの研究の成果と今後の課題を整理する。	○	○	○	課題レポート グループ発表など
三 学 期	○研究活動の継続・まとめ ○最終発表	7	○ゼミごとに分かれて研究活動を行う。 ○中間発表を受けて軌道修正し1年間のまとめとして研究を追加・整理する。 ○1年間の研究成果を最終発表会で発表する。 研究結果を整理し、ポスターやスライド資料などを利用して最終発表を行う。	○	○	○	課題レポート グループ発表など
		合計 35					